

学会報告

- 研究の成果は学会報告、論文化で行います。学会に抄録を提出する時点で解析は終了しているので、論文化を開始し、学会報告と同時に論文も公表されることも多くなっています。
- 例え negative results であっても成果の公表は必須です（出版バイアス）。
- 多機関共同研究では、試験開始時にあらかじめ Publication policy を定めておきます。
 - JACCRO では登録症例数の多い施設から ①論文の筆頭著者、②国際学会の筆頭演者、③国内学会の筆頭演者などと決めています。
- 成果は可能な限り多くの学会で報告したいものです。
 - 最も重要な成果は Primary endpoint です。Primary endpoint には OS, PFS, 奏効率などがありますが、secondary endpoint が先に判明している場合でもまず primary endpoint から報告します。Secondary endpoint が positive であっても、後で報告する primary endpoint が negative では騙し討ちになります。
 - 可能な限り、国際学会（ASCO, ASCO GI, ESMO, ESMO GI など）で公表したいものです。いずれの国際学会も 4ヶ月前頃に抄録が締め切られます。常に、抄録の締切日を念頭に入れ解析を進めて下さい。国内学会は 6ヶ月前頃に抄録締切になる場合があり、鮮度が落ちる危惧があります。
 - 学会報告されるまでは、成果を関係者以外に口外してはなりません。
 - 全く同じ内容を複数の学会で報告することは許されません。（但し、学会によっては海外で報告した成果を、アンコール演題として採択することもあります。）少しでも新しい解析データを加えて下さい。（Safety, 付随研究など）
- 国際学会における学会報告には様々な形式があります。
 - ASCO を例にすると、Oral presentation、Poster presentation に分かれ、特に優秀な演題は Plenary session で採択されます。
 - 発表時間が短い Mini-oral は ESMO や JSMO で設定されています。
 - Trial in progress：現在症例集積中の臨床試験のコンセプトを公表する機会もあります。

